

● 1958年

- 1月1日「十月革命の道とわれわれの道」(山口一理『マルクス・レーニン主義』第9号)
「一九五八年をむかえて」(日本共産党東大学生細胞委員会・加藤明男)
- 1月20日『反戦旗情報』復刊第3号
- 1月30日「革命的マルクス主義とは何か」黒田寛一『探求』第三号
- 2月9日日本革共同第6回全国代表者会議
- 3月30~4月1日日本反戦学生同盟第十回全国委員会
- 4月8日医学連機関紙「全日本医学生新聞」—創刊
- 4月15日「世界革命」第38号(「第四インターナショナル」改題)~〇号(日本革命的共産主義者同盟)
- 4月20日『反戦旗情報』復刊第4号
- 4月30日安保反対・平和と民主主義をまもる青年学生共闘会議(青学共闘会議)-結成
- 5月25・26日日本反戦学生同盟第四回大会(日本社会主義学生同盟への改組決定)
- 5月27日日本社会主義学生同盟(社学同)—結成第一回大会
(委員長—中村光男、副委員長—鈴木啓一、書記長—清水丈夫)
- 5月28~31日全学連第十回全国大会(委員長—香山健一、副委員長—佐野茂樹)
- 5月×日『マルクス・レーニン主義』第10号
- 6月1日「六・一事件」(日本共産党中央と学生党員の衝突~小川 登・仲尾 宏参加)
- 6月6~8日医学連第五回全国大会(米英核実験阻止・全学連加盟促進等決議)
- 6月8日夜学連第六回全国大会(夜学連解散・全学連への組織統一決定)
- 7月27日日本革命的共産主義者同盟第七回全国代表者会議—第一次分裂
黒田寛一、大川次郎(小泉恒彦)、山村 克(白井朗)、遠山〇〇
日本トロツキスト同志会—結成(太田 竜)、機関誌紙『永久革命』『労働者の声』
- 7月21~8月1日日本共産党第7回大会~「行動綱領」「党章草案」論争、書記長—宮本顕治
- 7月×日『マルクス・レーニン主義』第11号
- 7月×日『マルクス・レーニン主義』第11号附録
- 8月15~20日原水禁第四回世界大会(日共~「ソ連水爆実験」賛成)
- 8月31~9月1日社学同第二回臨時大会(委員長・陶山健一—勤評闘争方針等決定)
- 9月1日『理論戦線』(日本社会主義学生同盟機関誌)—創刊
- 9月4日全学連第十二回臨時全国大会(委員長—香山健一「労学同盟軍規定」)
- 9月15日勤務評定粉砕第一波全国総決起集会
- 9月22日機関紙「導火線」創刊号(~10号日本社学同北海道支部)
- 9月×日「プロレタリア通信」(全学連フラクション機関紙・共産同中央書記局)—創刊
- 11月4日日本革命的共産主義者同盟関西ビューロー(西京司・岡谷進)機関紙「プロレタリアート」創刊号
- 11月5日警職法阻止全国ゼネスト(国労等五単産一日スト、私鉄等十九単産時限スト)
- 12月×日「全国の同志諸君！

われわれがプロレタリアートの前衛として『反逆者』から自己を区別して闘争を開始しはじめてから3か月以上が過ぎた。この間の階級闘争は、世界的規模でも、日本においても、この数年になかった激烈さをもって闘いぬかれ、プロレタリアートの偉大な戦闘力と、しかしながらスターリニズムから脱することの出来ない『前衛』の無能と裏切りとをまざまざと示している。

フランスプロレタリアートの無残な敗北を見よ！しかもこのような敗北すら真剣に直視できない破廉恥を見よ！9月勤評闘争、10月、11月警職法闘争と、3ヶ月にわたった日本プロレタリアートの政治闘争の偉大な発展とそこにおける社会民主主義者の決定的な裏切りの過程で、代々木官僚のしたことはなんであったか！社民と自らを区別するものが、彼らの重要な政策において何かあったらうか、その上で彼らはブルジョアジーとともに、この間プロレタリアートの最良の同盟軍として献身的に闘った全学連に対する攻撃を、これから全面的に強化しようとしている。

全国の同志諸君！

われわれはこの間、数限りない困難やブルジョアジーから代々木官僚に至るまでの総攻撃に直面しながら、われわれの指導下にあった全学連の闘争をプロレタリアートの同盟軍として、立派に組織した事を誇りをもって語ることができる。今や我々は、これらの経過の上になんて、明確に『代々木官僚』から分離し、さらに革命的労働者の組織と労働者大衆の獲得に公然たる闘争を開始せねばならぬ。そのため下記の要領で、全国代表者会議を開催する。

日時 12月10日(日) 10時から7時

場所 東大経友会に午前9時から9時半までに本状を持参して、連絡を受ける。

場所はそのとき連絡する。必ず時間を厳守せよ。

注意 参加者は本状持参者に限る。議案は当日配布する

(「全国代表者会議招請状」)

●12月6・7日京都府学連第十四回臨時大会(書記長—北小路敏・京都大学)

●12月10日**共産主義者同盟(フント)創立大会**

(大会議長—坂田静朋・芳村三郎・医歯薬ビル・約四五名)

書記長—熊谷信雄(島 成郎)・姫岡玲治(青木昌彦)、佐久間元(片山迪夫)

坂田静朋(古賀康正)、(森田 実)、…《五名政治局》

「全学連」G～(小島 弘)、(小野寺正臣)、(志水速雄)、(松田武彦)、(香山健一—病欠)

「社学同」G～加藤明男(生田浩二—病欠)久慈二郎(富岡倍雄)、〇〇(香村正雄)、

鍋木 潔(大瀬 振)、岸本健一(陶山健一)、杉田信夫(野矢テツ夫)、

岡田 新(清水丈夫)、(星野 中)、(中村光男)、森 茂(鈴木啓一)、

〇〇(篠原浩一郎)、長尾弘夫(小川 登)、北川 登(小野田猛史)、

〇〇(向井拓治)、(灰谷慶三)、(唐牛健太郎)

「早大」G～佐久間 元(片山迪夫)、芳村三郎(小泉修吉)、〇〇(西江孝之)、〇〇(加藤 昇)

「革共同」派～唐木恭二(星宮煥生)、鎌倉〇〇(塩川喜信)、〇〇(土屋源太郎)、

〇〇(鬼塚豊吉)、〇〇(芝沼榮至)、

「探究」派～田宮健児(本多延嘉)、山村 克(白井 朗)、青山 到(守田典彦)—37名判明

●12月11・12日社学同第三回全国大会(委員長—陶山健一、書記長—多田 靖)

●12月13～15日全学連第十三回臨時全国大会(革共同・共産同妥協人事)

(委員長—塩川喜信、副委員長—小島弘・加藤昇、

書記長—土屋源太郎、情宣部長—青木昌彦、書記次長—清水丈夫)

●12月31日社学同(全国執行委員会)「日本共産党の組織破壊工作に対する声明」

● 1959年

●1月1日『日本共産党の危機と学生運動』(全学連意見書、責任者・香山健一)—発行

●1月10日日本革命的共産主義者同盟関東ビューロー(機関誌『共産主義者』NO1・機関紙「労働者」)

●1月13日日本革共同立命館大細胞—結成(星宮煥生、寺岡 衛)

●1月15日日本共産党東大細胞会議(分裂—多数派、共産同に結集)

●1月25日国際主義共産党(ICP)—結成(太田 竜・機関誌紙『永久革命』「労働者の声」～1960)

●2月1日共産同・理論機関誌『共産主義』—創刊(「全世界の獲得のために」)

●2月17日「東京党報」N045(日本共産党東京都委員会)「第四回港地区党会議の評価について」

●3月10日社会主義青年労働者同盟(社青労同)森田 実・機関誌『労働戦線』第1号

●3月10日機関紙「プロレタリア革命」NO1(社学同北海道委員会)

●2月25日石井保男(元医学連書記長)—国際学生連盟(国際学連・IUS)へ全学連代表派遣

●3月25日共産同第一回全国細胞代表者会議(東大教養部・革共同派の排除決定)

●3月28日安保条約改定阻止国民会議—結成(社会党、総評、原水協等十三団体・

日本共産党オブザーバー参加)

●4月1日『共産主義』第2号(「安保改定と中立『政策』」)

●4月2日安保改定反対青年学生共闘会議—結成

(全学連、民青同、社会党青年部、総評青年部、全青婦、全日農青年部・六団体)

●4月28日全学連、安保反対第一次統一行動

●5月9日学生運動民主化協議会(学民協)—結成(議長—佐々木慶明・書記長—小島昌光)

●5月×日『現代の理論』—創刊(第1期～第5号発行停止処分)

- 6月3・4日社学同第四回全国大会(委員長・大瀬 振一革共同系を排除)
 - 6月5～8日全学連第十四回全国大会(委員長—唐牛健太郎、書記長—清水文夫)
(方針議案は革共同、プント系は中央執行委員会を把握)
 - 6月1日『共産主義』第3号(「革命的前衛党の確立のために、
戦闘的労働者は共産主義者同盟に結集せよ！」)
 - 6月9日共産同第二回大会(北部労政会館・革共同との党派闘争激化)
 - 6月20日京都大学同学会—再建宣言(委員長—野口修、議長—今泉正臣)
 - 6月25日安保改定阻止第三次統一行動(日比谷野音・3万人)
 - 6月30日社学同左翼反対派(革共同関西ビューロー系)—結成(機関紙「ポルシェビキ」)
 - 6月×日『論争』創刊号～31号(～63年・論争社)
 - 7月4～7日京都府学連第十五回大会(革共同系を排除)
 - 7月11・12日大阪府学連第二十一回大会(民青同系が執行部把握)
 - 7月24日国鉄動力車労働組合(機労の改称)
 - 8月1日『共産主義』第4号(「さらに歩を進めよ！現情勢と革命党建設の道」)
 - 8月1・2日日本共産党(解放戦線)—第一次—「志田重男」グループ—結成・能勢町・上田 等、
 - 8月16日日本革共同関東ビューロー大会(関西ビューローと探求派の対立激化)
 - 8月26・27日日本革命的共産主義者同盟第一回全国大会—「綱領草案」論争—第二次分裂
(「黒田・大川事件」—黒田・大川除名決議)
 - 8月29日革命的共産主義者同盟全国委員会—結成・
武井健人(本多延嘉)、北川登(小野田猛史)、広田 広(飯島善太郎)、
(野村文教)、(北村文彦)、山村克(白井朗)、山本勝彦(黒田寛一)
—機関誌紙『共産主義者』「前進」
 - 8月29～31日共産同第三回大会(安保闘争方針、「綱領第三次草案」決定)
 - 9月5日『共産主義者』NO2(日本革共同関東ビューロー)
 - 9月12～19日日本社会党第一六回大会
 - 9月20日革共同全国委員会機関紙「前進」創刊号(機関誌『共産主義者』第二号～)
(「反帝反スターリン主義の旗のもと革共同全国委員会に結集せよ！」)
 - 10月1日『共産主義』第5号(「共産主義者同盟第三次綱領草案」)
 - 10月16・17日日本社会党第一六回統開大会(西尾末広等、離党)
 - 11月7日『共産主義者』NO3
 - 11月23日「マルクス・レーニン主義党の純潔をまもれ」(東京都委員会常任委員会「アカハタ」)
 - 11月27日安保改定阻止第八次統一行動・全学連、総評東京地評、国会突入・構内集会
『東京では人の人生観が毎日変わっている！東京に続け！全ての活動家諸君、
戦闘配置につけ！』(「京都府学連通達」12・3)
 - 11月27日安保反対大阪集会(大阪府学連・全学連委員長—唐牛健太郎、デモ指揮)
 - 11月27日共産主義者同盟大阪市大細胞—結成(武田信照、柳田健、清島靖典、原・・、矢谷・・)
 - 11月28日日本共産党同志社大細胞—解散声明
 - 12月1日『共産主義』第6号(「真の労働者前衛党を確立せよ—同盟一年の活動総括」)
 - 12月3日共産主義者同盟同志社大細胞—結成宣言
(佐藤浩一、仲尾宏、浅川清、高野澄、カベ新聞「小さな旗上げ」)
 - 12月3日日本共産党京大細胞—解散声明
 - 12月5日共産主義者同盟京大細胞—結成宣言(佐野茂樹、今泉正臣、北小路敏、小川 登、野口 修)
(「新しいサイは投げられた！」・『鉄鎖を砕け』創刊号)
 - 12月×日共産主義者同盟関西地方委員会(議長—今泉正臣、書記長—小川 登)—形成
 - 12月6日京都府学連第十六回臨時大会(国会デモ支持の方針決定)
 - 12月13日日本共産党東京都港地区委員会(委員長—山崎 衛、副委員長—田川和夫他)
「プロレタリア革命の勝利のため公然たる党内闘争を展開せよ！」
 - 12月×日共産主義者同盟大阪中電(秘密)細胞(前田裕昭他)—形成(古賀康正の来大阪指導)
- 1950年**
- 1月1日「戦旗」第1号—発刊(世界労働運動研究所・「世界革命の新たな展望をきりひらけ」)
 - 1月15・16日岸訪米反対羽田空港ロビ—籠城闘争(唐牛健太郎・全学連委員長他76名逮捕)
(「労働組合の旗はただ一本、大阪中電の青年行動隊旗しかなかった」)

大崎 悟(前田裕晤)「労働者の前衛観」より

- 1月19日(日米相互協力及び安全保障条約(新安保条約)調印)
- 1月24日民主社会党—結成(日本社会党の分裂・委員長—西尾末広)—69年・民主党へ改称
- 1月25日三井三池炭鉱労組—指名解雇反対!無期限全面スト突入(総資本と総労働の対決)
- 1月28日早稲田大学「社会主義学生戦線フロント」—結成
- 2月1日『共産主義』第7号(終刊)
(「安保四月決戦に決起せよ!権力奪取をめざす前衛党へ向けて」)
- 2月9日社学同第五回全国大会
(委員長—篠原浩一郎、書記長—藤原慶久—四月全国ゼネスト・国会包囲デモ等方針決定)
- 2月10日長崎造船社会主義研究会(長船社研・西村卓司他)—結成
- 2月10日共産主義者同盟関西大会
- 2月27日日本社会主義青年同盟(準)全国学生班協議会準備会—発足
- 3月16・17日全学連第十五回臨時全国大会(委員長—唐牛健太郎、安保闘争方針決定)
- 3月×日国際主義共産党(ICP)第6回総会—太田竜派と多数派の分裂
- 3月29日三池闘争(第一組と第二組の激突・暴力団員による第一組員の刺殺)
- 4月10日「戦旗」第11号「世界革命の旗の下、共産主義者同盟に結集せよ!」
—第五回臨時(日本共産党)港地区党会議声明
- 4月14日「アカハタ」—「学生運動におけるトロツキスト極左日和見主義粉碎のために」(日共青対部)
- 4月16日マルクス主義学生同盟(マル学同)第一回都同盟員総会(機関誌『スパルタクス』)
- 4月23日共産主義者同盟神戸地区委員会—結成(藤本敏夫・機関紙「鉄鎖を砕け!」)
- 4月24日共産同第四回臨時大会(四・二六学生ゼネスト、国会包囲闘争決定)
- 4月26日安保改定阻止第十五次統一行動(10万人・全学連、装甲車を超えて国会正面へ戦闘的デモ)
- 4月28日沖縄県祖国復帰協議会—結成
- 5月×日労働問題研究会(香山健一、森田 実—機関紙「週刊労働運動」)—設立
- 5月19日安保特別委員会(衆議院)—新安保条約「強行採決」
- 5月19日安保改定阻止第十八次統一行動第一波統一行動
- 5月28日「安保闘争の敗北の確認の上に安保闘争の勝利的展望を切り拓け」
(共産主義者同盟九州地方委員会・青山 到)
- 6月10日第二メーデー・国民会議・全学連等20数万人国会デモ
J・ハガチー(アメリカ大統領秘書)来日反対闘争(全学連反主流派)
- 6月×日東京グラムシ研究会—結成(石堂清倫・中村丈夫)
- 6月11日反スターリン連盟—結成
(福本和夫・対馬忠行・大沢正道・秋山 清・姫岡怜治・佐久間 元・森 茂・黒田寛一)
- 6月13日共産同拡大政治局会議—国会突入方針決定
- 6月15日安保改定阻止第十八次第二波統一行動—全学連国会突入闘争。
全学連第1次デモ梯団指揮—北小路 敏、第2次デモ梯団指揮—武田信照
東大生・樺美智子虐殺(享年22)
- 6月15日安保反対全京都学生総決起集会(同志社大学・京都府学連・1万名～戦後最大)
- 6月17日新聞「七社共同声明」
- 6月18日安保条約改定自然成立 33万人の国会包囲デモ
- 6月25日「全学連通信」6・15斗争緊急特別号—「主張—頭を高く最前列へ!!学友の死に応え、最後の勝利を」
- 6月25-27日民青同第6回全国大会
- 6月27日「分裂主義者トロツキストを放逐せよ!」(日本共産党北海道委員会・札幌委員会)
- 6月30日京都府学連第十七回大会(委員長—淺川 清)～革共同系の総括批判続出
- 7月5日「戦旗」第19号「迫りくる階級決戦を革命の勝利へ!」(熊谷信雄)
- 7月4~6日全国学生自治会連絡会議(全自連)—結成、議長—黒羽純久
- 7月4~7日全学連第十六回全国大会(秋期闘争方針決定、民青派、革共同関西派はボイコット)
- 7月7日三井三池炭鉱労組—「海上決戦」
- 7月19日三井三池炭鉱労組—「10万人決戦」
- 7月29・30日共産同第五回大会(分派闘争の開始、分裂)
- 8月15日アピール「さしあたってこれだけは」(谷川雁、鶴見俊輔、藤田省三、吉本隆明、武井照夫他)
- 9月5日『安保闘争—その政治総括—』(武井建人、山村克、北川登著・現代思想社)刊行

- 9月18日「プロレタリア通信」創刊(姫岡怜治、清水丈夫、林紘義、唐牛健太郎、篠原浩一郎)
- 9月23日革共同全国代表者会議(黒田寛一議長就任)
- 9月25日『日本国家独占資本主義の成立』(姫岡怜治・現代思潮社)刊行
- 9月26日「革命の通達」創刊(星野中、服部信司、長崎浩、蔵田計成、下山保)
- 10月10日日本社会主義青年同盟(社青同)結成大会・委員長—西風 勲
(機関紙「社青同」→「青年の声」)
- 10月11日「戦旗」派一形成(田川和夫、山崎衛、青山到)・分派闘争の激化
- 10月12日三党首大演説会(自民・社会・民主—日比谷公会堂)～社会党委員長—浅沼稻次郎、刺殺される(山口二矢)
- 11月20日『革命論争資料集』発行(戦旗編集局編)
- 11月28日機関紙「共産主義通信」第1号(共産同北海道委員会)
- 12月25日機関紙「二十四人」—発刊(六・一五闘争被告団)